▲健康状態がわかるウェルビーイングミラーの前に立つ浅田市長

地域と共生するFFG

熊本県

荒尾市

Arao City

ウェルネス×スマートシティ

（寄稿 荒尾市）

東京ドーム7.5個分の新しいまちでSociety5.0の実現へ

人口5万人、高齢化率35％の地方都市、荒尾市。

その荒尾市は今、2012年に閉鎖された競馬場の跡地「南新地地区」を活用し、全く新しいまちづくりに着手しています。跡地の広さは、約35ヘクタール。実に東京ドーム7.5個分です。まちづくりのコンセプトは「ウェルネス」。誰もが安心・安全に居住・滞在でき、賑わいと活力に満ちた「輝くようにイキイキしている」（＝ウェルネス）状態になるまちを目指し、歩みを進めているところです。

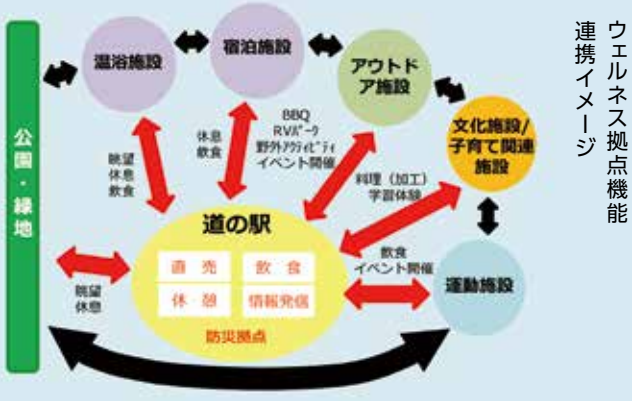
また、Society5.0の実現に向け、AIやIoTなどの先進的技術を取り入れたスマートシティの取組にもチャレンジしています。2019年5月には、国土交通省のスマートシティモデル事業「重点事業化促進プロジェクト」に選定され、2020年7月、全国のけん引役となる先駆的な取組を行う団体として、「先行モデルプロジェクト」に選定されました。全国で選定された22団体のうち、九州で選ばれた団体は荒尾市のみです。

土地利用方針イメージ

ウェルネス拠点

主に競馬場跡地からなる「南新地地区」では、2024年春のまちびらきに向け、現在、土地区画整理事業にて盛土や道路工事等を実施しているところです。まちづくりのコンセプトであるウェルネスの拠点を形成するため、街区ごとに土地利用方針を定めています。住宅のエリアに加え、生活利便施設や公益施設、公園、緑地のゾーンがあります。公益施設ゾーンには、市が整備を予定している道の駅や保健福祉子育て支援施設が出来あがる予定です。

また、公益施設ゾーンを中心としたウェルネス拠点形成の「先進コアゾーン」には、道の駅や保健福祉子育て支援施設のほか、温浴施設、宿泊施設、運動施設、アウトドア施設などの民間事業者を誘致する予定です。それぞれの施設を単独で配置するのではなく、機能連携・分担しながら、相乗効果で新たな価値を生み出す「機能連携型ウェルネス拠点」の形成を目指しています。



ウェルネス拠点機能連携イメージ

▶南新地地区完成イメージパース

スマートシティの取組

現在取り組んでいるのはエネルギー、モビリティ、ヘルスケア、データ利活用の4分野です。

エネルギー分野では、再生可能エネルギーの域内活用、蓄電池・EV等との連携、群制御によるエリア全体のエネルギーマネジメントシステムと災害に強い電力インフラシステムの構築を目指しています。また、モビリティ分野では、AIを活用したオンデマンド相乗りタクシーの運行を2020年10月から開始しました。その他、蓄電池としてのEV活用・電動化とともに、自動運転を含むMaaSの実現を目指しています。

ヘルスケア分野では、東北大学COI東北拠点と連携して「さりげないセンシングと日常人間ドック」の取組を進めています。例えば、鏡の前に立つだけで健康状態が分かる「ウェルビーイング・ミラー」などのセンサーを活用して、日々の生活を人間ドックのようにしてしまおう、というものです。ただ単に健康状態を「はかる」だけではなく、はかった健康状態を離れて暮らす家族と共有したり、その日の健康状態に合った食事のメニューや運動プログラムへの推奨につなげることで、健康への意識変容が自然な形で図られることを目指しています。

データ利活用の分野では、東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センターと連携して、個人情報をより安全に管理・活用する仕組み「パーソナルデータエコシステム」の検討を進めています。現在、GAFAに代表される民間事業者が集中

上/おもやいタクシー
下/おもやいタクシー車内

管理している個人情報を個人が管理し、本人の同意による利活用を推進しようというものです。例えば、アプリを使って、保護者が子どもの情報をかかりつけ医や保健師、学校の先生などと共有することで、子どもへのよりきめ細やかな対応を可能にするなど、市民サービス向上を目的にしています。

暮らしたいまち日本一を目指して

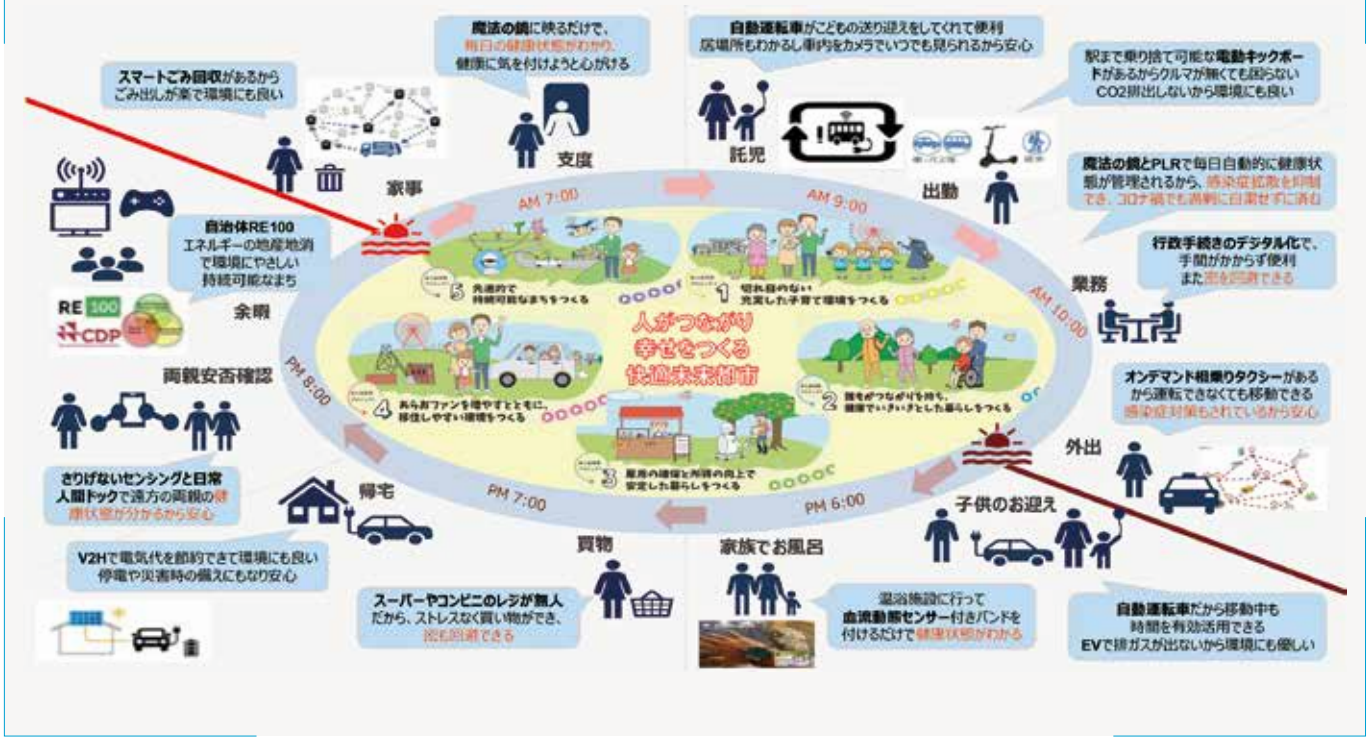
新技術が導入・コントロールしやすい南新地地区をリビングラボ（企業、市民、行政等で常に新たな課題を解決する取組を共につくっていく場）として活用しながら、事業性が確立された取組を市全域に展開していきます。

荒尾市が目指しているのは、市民が誇りを持って「荒尾市に生まれ育ってよかった」と実感できるまちづくりです。自分の子どもや孫にも荒尾市で育ってほしいと思う市民が一人でも増えるような快適で暮らしやすいまちをつくる。快適さを実感できる「暮らしたいまち日本一」づくりを民間事業者・学術研究機関との強力なパートナーシップで推進しているところです。

▲あらおスマートシティ推進協議会集合写真（2019.8.23）

まちの将来像・ビジョン

※赤字は感染症対策



水都やながわ
令和2年12月20日オープンしました。

福岡県

柳川市

YANAGAWA CITY

寄稿：柳川市

水上に浮かぶ柳川の舞台

柳川市に新たに開館した柳川市民文化会館「水都やながわ」。「水上に浮かぶ柳川の舞台」をコンセプトに設計されています。

市出身の詩人北原白秋にちなんだメインホール「白秋ホール」は1、2階合わせて800席。1階の客席は可動式となっており、センターステージやアリーナ方式、平土間などに転換できます。また、大ホールの掘割側に面した壁を開放し船着き場と一体としたここでしかできない演出も可能です。

「水都やながわ」の夕景

客席後方の壁を開放して掘割と連続できる

メインホール「白秋ホール」

建物のそばの掘割は、平成27年に国名勝に指定され、美しい景観が広がっています。掘割に面した広場やロビーでゆったりと過ごすこともできます。

その他、市民が利用しやすい200席のイベントホールやレッスンルーム、研修室や防音構造の音楽スタジオもあり様々な用途に活用できます。

市民サポーターの皆さま

市民とともに歩む育成型ホール

「水都やながわ」では、舞台技術、アナウンス、フロント接遇の市民サポーターを育成しています。12月のイベントではチケットの受付や影アナウンスを市民サポーターが担当しました。また、自主事業の市民企画ミーティングを開催し、参加している市民有志で企画を練り上げてきました。3月7日市民企画の第一弾のイベントが実施されます。

アリーナ形式の客席で開催予定

こっぽりーの音楽会

「水都やながわ」市民企画ミーティング第一弾「こっぽりーの音楽会」を3月7日に開催します。「柳川でアーティストが育つ、柳川で文化芸術を楽しむ、音楽の地産地消を目指して企画を考えてきました。子ども達が本物の音楽にふれる場にしたいです」と企画メンバーの田嶋さん。こっぽりーは、柳川の水の精で、「ゆったりと」の意味の方言が語源です。

SNS、HPで情報発信中!

SNSでも市民が活躍中
詳しくはこちらで。

HP　Instagram

facebook　Twitter　LINE

柳川市民文化会館　水都やながわ

〒832-0058 柳川市上宮永町43-1 TEL0944-73-7777